



地域が子どもを守る

人口が急増している加茂野町では、住宅が点在しており、また、道幅が狭い場所が多くあるなど子どもにとって、安全とはいえない場所が多くあります。

そうした中、「かもの子育てネットワーク」(会長佐々木俊慈さん)では、地域ぐるみで、犯罪から子どもを守ろうと、町内の26団体が力を合わせて、活動を行っています。

加茂野小学校前の国道の横断歩道橋に掛かる横断幕、町内の道路沿いにある大きな看板、あるいは、町内でよく見かける黄地に赤文字のステッカーを張った車などは、かもの子育てネットワーク(以下、ネットワーク)が取り組んでいる、地域が子どもを守る活動です。

このネットワークは、平成15年度発足の「かもF10委員会」(市教育委員会が進める「みのかも教育21『FROM10歳プラン』」を受けた、加茂野小学校区委員会が母体で、その後、親しみやすく名称を変更し、参加団体も増えています。

関係者の共通の願いは、「地域ぐるみで、子どもを育てよう」を合い言葉に、子どもたちにかかわる団体の協力関係を強めたいということです。発足以来さまざまな協力活動を進めています。本年度の重点活動として、「子どもの安全確保」運動に取り組むことになったそうです。

まず、犯罪を未然に防ぐための活動として、不審者や不審な車が通りそうな道路沿い17カ所に「こどもの安全を守る町かも」という大型の看板を設置、また、PTAをはじめ地区の皆さんにも協力を呼び掛けて、「こども安全パトロール」というステッカー500枚を製作、自家用車

インタビュー



かもの子育てネットワーク

加茂野町自治会長 井戸孝夫さん(写真左)

加茂野小学校校長 田中 博さん(同右)

井戸さん「子どもにとって安全な町は、大人にとっても安全な町でもあります。地域全体で子どもを育てることが、まちづくりの将来につながっていくと思います」

田中さん「網(ネット)のように、乳幼児期家庭教育学級、保育園、小・中学校の縦系と、学校(保育園)・家庭・地域団体の横系の絆(きずな)が強くなれば、子どもが安心して育つ地域になります。加茂野には、その志と行動があり、心強いです」

の目立つ所に張っていたとき、地域ぐるみの防犯活動へ、その取り組みを進めました。

参加者からは、「ステッカーを付けて走るのに、最初は少し恥ずかしさもありましたが、慣れれば平気です。また、わたしのほかにも付けて走ってみる車を見ると勇気付けられたり、一緒になって活動している感じがしたりしてうれしくなります」(メンバーの声)などの意見が寄せられているそうです。

こうした取り組みが功を奏したのか、加茂野町内で小・中学生が声を掛けられるなどの危険な事例が年間4〜5件ありましたが、今年度は



昨年7月、防犯を呼びかける看板を町内に17カ所に設置されました

まだ報告がないそうです。今後の活動として、下校時の子どもたちの安全をいかに守るかということが挙げられ、その対策として散歩や犬の散歩、あるいは買い物などの外出を、子どもたちの下校時間に合わせさせていただき、見守っていく活動に取り組んでいきたいとのことでした。